

派遣国	ミャンマー	派遣都市	ピー
出国年月日	2020年2月9日	帰国年月日	2020年3月8日
法政大学との共催団体名（受入団体名）	シャンティ国際ボランティア会		
主な活動内容	事務作業補助、現場調査同行、広報		

（1）課題設定 【出発前】

次の2つの事項を本プログラムの「目的」として挙げる。

一つ目は、国際支援を職業としている NGO 職員の方々と実際のプロジェクトに参加することで、自分が将来国際協力に関わる者として、または、この分野の活動に携わる人間としてのマインドセットや必要とされるスキルを理解し、少しでも体得するためである。

二つ目は、発展途上国のミャンマーの郊外地域の教育現場の現状を直接現地に足を運んで見ることで、NGO による教育支援が地元の子供の生活に実際にどのようなインパクトを与え、いかにして彼らの生活向上に寄与しているのかということ、よりダイレクトに理解するためである。現在、自分は国際 NGO や国際協力に関する授業をいくつか履修しており、国際支援団体が発展途上国に対して行っている、教育・農業・医療など様々な分野における開発支援に関して学習する機会があった。しかし、文字面では理解することができない現場の現状、実際に現場で何が起きているのかを直接知りたいという強い願望があった。今回プログラムを利用して、教室ではなく現地でしか知ることができない経験をすることで、NGO の国際支援活動への理解をより一層深めていきたいと考えている。

続いて、次の2つの事項をこのプログラム中の「達成目標」として掲げる。

一つ目は、今回の活動に参加する前に、ミャンマーの人々の国民性、文化、慣習、国内情勢を、書物や友人など様々なソースを利用して、前もって深く理解することによって、現地で働いている職員や現地人との関係をより迅速かつ深くし、コミュニケーションを円滑にすることで、より効率よく業務を遂行できるようにすることである。違う文化の下で育ったヒト同士が信頼関係を構築するうえで、相手方の文化を理解しようとする姿勢は不可欠であり、その信頼関係は仕事を効率化するために大変重要な役割を果たす。さらにその結果として、不自由で慣れない環境で暮らす精神的ストレスを軽減し、今回の研修をより意義深いものに出来る。

二つ目は、活動期間中に自分なりにフェイスブックやインスタグラムなどの SNS を通じて、ミャンマーの郊外地域の人々生活の現状やミャンマーでしか経験できない新鮮な情報などを発信することで、アウトプット・情報発信能力の向上に努めるとともにより多くの知り合いや友人に国際協力に関心を持ってもらい、一人一人が世界の不平等の改善にどう向きあえるかを、真剣に考えるきっかけを作っていきたいと考えている。また最終的に、SNS などを通じて国際協力に関わる方たちとの人脈を広げていくことで、将来の自分の国際協力師としてのキャリア形成の可能性拡大につなげていきたいとも考えている。

(2) 事前調査活動内容【出発前】

▶ ミャンマーの特徴

ミャンマー連邦共和国の面積は6万km²（日本の1.8倍）であり、インド、バングラデシュ、中国、タイと国境を接している。ミャンマーは東南アジア最後のフロンティアとも呼ばれており、近年の経済成長は著しく、2019年度のGDP成長率は6.6%で推移している。今後更なる経済成長が期待されており、外国資本投資の増加も著しい。人口は約5300万人、全人口の90%以上の国民が仏教を信仰しており、イスラム教徒やキリスト教徒は少数。ミャンマーは、国内におよそ135種類の少数民族を抱えおり、1948年の独立以降、多くの民族紛争に苛まれた。1949年から、国内各地で政府軍と少数民族の間で紛争が勃発し、隣国に多くの避難民を生み出した。

ミャンマーは1948年にイギリスから独立を果たし、1962年の軍事クーデターから社会主義政権が誕生した。1988年以降の軍事政権を経て、国名がビルマからミャンマーに変更された。1988年に大学生を中心として起きた民主化運動を軍事的手段で弾圧したことによって、米国主導の経済制裁を受けたため、ミャンマーはしばらく半鎖国状態になった。1980年代後半になると、アウンサンスーチーらによる民主化要求運動が勢いを増し、軍事独裁政権はこれに対し武力で対応した。そうしたことによって生まれた国際社会からの圧力と中国の影響力拡大に対する懸念を背景に、2010年総選挙が行われた。しかし、アウンサンスーチー率いるNLD（国家民主連盟）は選挙をボイコットしたため、軍事政党が勝利を飾ることとなった。その後の2011年3月、新たに就任したテインセイン大統領の下で民政移管が行われ、次々と開放政策を打ち出しことで、外国からの投資が進み急速な経済成長が端を発した。2016年4月には、NLDが総選挙で勝利し、議会の議席の多数を占め、アウンサンスーチーは国家最高顧問兼外務大臣に就任した。しかしながら、いまだに軍部が強力な権威を掌握しており、アウンサンスーチーが思い描く理想の国家づくりが実現していない。そんな中、2017年のロヒンギャ問題が国際的な注目を集めた。2017年ラカイン州の過激化した一部のイスラム教徒ロヒンギャが警察署などを襲撃した事件をきっかけに、ロヒンギャが国軍や地元民から迫害を受け、約90万人がバングラデシュに避難民として流れた。ミャンマーの平和の象徴とされていた国家最高顧問兼外務大臣のアウンサンスーチーは国際世論から非難を受け、2019年には、ロヒンギャを人権侵害から保護するよう対策講じるべきとの指示が国際司法裁判所から出された。

▶ シャンティ国際ボランティア会の支援事業内容

シャンティ国際ボランティア会の支援事業は主に3つある。まず、1つ目に挙げるのが図書館事業である。カンボジア、アフガニスタン、ミャンマー、ラオスなどの国に住む子供たちに、絵本を読む機会を提供しており、具体的には、日本から支援対象国の子供たちに絵本を届ける活動、絵本出版、現地図書館員のトレーニング、公共図書館や学校図書館の設営、移動図書館活動の支援を行っている。2つ目に挙げるのが学校建設事業である。緊急度の高い地域に小学校校舎の建設や、トイレや井戸の設置、学校の先生方に対する教育指導など、子どもたちの就学の機会や教育の質向上に対する支援を行っている。3つ目は、緊急支援事業である。国内外で発生した自然災害で被害にあった地域や地域住民に対して、建物の修繕や文房具の提供、食糧配布などの支援を行ってきた。

参考文献

上別府隆男 「ミャンマーの高等教育改革と今後の方向性」 (2018)

根本敬 「アウンサンスーチーのビルマ 民主化と国民和解への道」, 岩波現代全書, (2015)

SVA ホームページ <https://sva.or.jp/activity/> (最終閲覧 2020/3/17 11時頃)

(3) 現地における活動内容 【活動中】

▶ 学校建設現場調査同行

SVA ピー事務所が、支援しているミャンマーの西バゴー地域の学校建設の現場に同行し、プログラム中、約2校訪問した。基本的には、ミャンマー人スタッフから、学校の規模やなぜSVAがこの学校を支援対象としたのかについて説明を受けた後、気になった点を建設会社の方々やエンジニアの方に質問し、それに加え、職員が報告書を作成する際に使用する写真の撮影補助を行った。



▶ 学校図書館視察または定期調査同行

SVA が支援している学校図書館の視察ならびに定期調査に同行し、プログラム中、約5つの学校図書館を訪問した。スタッフが訪問終了後に書く報告書作成のために、スタッフと教員の方々が話している様子の写真撮影の補助を行った。また、スタッフに通訳をお願いし、個人的に教員の方々に対して、図書館支援の効果や読書によって生まれた子供たちの変化について質問をさせていただいた。



▶ 公共図書館視察同行

SVA が支援している公共図書館に訪問し、プログラム中1校訪問した。基本的な業務は学校図書館の視察時と同じである。

▶ 翻訳作業

日本語で作成された学校建設事業報告書を英語に翻訳した。

▶ 公開表札ミーティング参加

公開表札とは、SVA が学校建設を依頼する建設会社を選定するプロセスの1つである。まず、SVA が建設会社に向け SVA が予定するプロジェクトの情報を公開し、応募を募り、応募した建設会社に対し、会社の経歴や人事、本拠地、資本金など会社情報と会社側が査定した建設費用を記した書類を、SVA の事務所に郵送してもらう。その後、SVA 学校建設事業職員と総務課の職員でそれらの情報を一斉に開封し、公開表札ミーティングで候補先を3社に絞るというもので、自分はその補助作業に従事した。

▶ 通訳（日本人ドナー訪問時）

プログラミング期間、2組の日本人ドナーがピー事務所とヤンゴン事務所に訪れた。日本人ドナーの方々の学校訪問や孤児院訪問に同行し、説明や質問が出た際に、ミャンマー人スタッフがミャンマー語から英語に翻訳、自分が英語から日本語、という風に簡易的な通訳を担当した。



▶ ブログ作成

プログラム期間中、終盤に一度だけ SVA の公式サイトに掲載されるブログ記事を執筆する機会をいただいた。テーマは自由。自分が自主的に行った、ピーで物乞いをする人々へのインタビューの内容について、現地日本人職員の方々から助言を頂きながら、ブログの執筆作業に取り組んだ。

▶ シャンティブログ

最新の記事

- ▶ コミュニティリソースセンター(CRC)での活動をご紹介
- ▶ 休校中で学校へ通えないから、こそ学びたい、世界の子どもの教育事情
- ▶ 映画『風をつかまえた少年』を観て思ったこと
- ▶ アイアムのストーリーに触れてみませんか
- ▶ 勉強よりおカネ… ～マーケットの物乞い少年の本音～ in ピー

活動地

- ▶ カンボジア (284)
- ▶ ラオス (284)
- ▶ ミャンマー (151)

勉強よりおカネ… ～マーケットの物乞い少年の本音～ in ピー

2020.3.1 ミャンマー

ミンガラバー！（こんにちは！）

ミャンマー、ピー事務所にてシャンティ2020年春期海外研修プログラムに参加させていただいて、押田悠希と申します。現在大学4年生で、ピー事務所の伊藤プロジェクトマネージャーの出身校、法政大学に通っています。

ミャンマーは乾期を迎えており、天気は毎日曇一つない快晴で、最高気温は30度を優に超えています。日本のどんよりとした湿気はないので、暑くても過ごしやすい気候だと個人的に感じています。しかし、乾期であるがゆえに、自動車やオートバイの排気ガスで大気汚染がひどいです。自分が滞在している宿から事務所まで自転車で通勤しているのですが、たまに排気ガスを吸いすぎてクラクラしてしまう時もあります。

ピーに関するネガティブキャンペーンはここまでしといて、本題に移りましょう！

▶ 最終まとめプレゼンテーション

プログラム終盤、ピー事務所とヤンゴン事務所でそれぞれ1回ずつ、事務所スタッフに向けて、プログラムの振り返り最終プレゼンを英語で行った。テーマと時間の指定は特になし。「自分にとってのこのプログラムの意味」というテーマで、25分程度の長さのプレゼンを行った。

(4) 振り返りおよび事後研究 【帰国後】

▶ 目標達成報告と今後の取り組み

1つ目に今回の活動に参加する前に、ミャンマーの人々の国民性、文化、慣習、国内情勢を、書物など様々なソースを利用して、前もって深く理解することによって、現地で働いている職員や現地人とのコミュニケーションを円滑にするという達成目標を設定していたが、これらに加えてミャンマー語を前もって学習しておく必要があった。渡航前に書物やインターネットを通じて、ミャンマーの独立後の歴史や政治情勢に関する情報収集を念入りに準備した為、ミャンマー人のスタッフや友人とミャンマーの政治情勢や教育問題に関する深い議論ができ、密度の深い時間を共有することができた。そして、業務上での SVA スタッフとのコミュニケーションは英語で円滑に進めることができ、ミーティングや調査活動の最中の意思伝達に問題はなかった。しかし、買い物する時やレストランで食事をする時に使わなければならない言語は大抵ミャンマー語であり、英語はほとんど通じない。訪問する学校の教師の方々と話すときも英語は通じないので、どうしても通訳を挟まないと意思疎通が出来ず、質問しても正しく翻訳されず思ったような回答を得られない場面もあった。基本的な会話表現やフレーズをある程度前もって習得しておけば、より多くの情報の獲得や円滑なコミュニケーションが可能であったであろう。今年4月から、ミャンマー支援の NPO でアルバイト勤務することが決まり、今年中に再度ミャンマーに滞在する機会もあるため、今後はさらに時間と労力をかけて、ミャンマー語の習得や文化理解に取り組んでいこうと考えている。

2つ目に、活動期間中に自分なりにフェイスブックやインスタグラムなど SNS を通じて、ミャンマーの人々生活の現状やミャンマーでしか経験できない新鮮な情報を発信することで、自分の周りの友人や知り合いに少しでも国際協力に興味を持ってもらうという目標を掲げていたが、宣言通り Facebook や Twitter を中心としてミャンマーにする情報の発信を行うことができ、友人や家族、知人から様々な反応をいただいた。それに加えて、他の NGO 団体に従事する方々との新たな関係を獲得することができた。具体的な投稿内容の紹介例として、活動地ピーのナイトマーケットで物乞いをしている人々に独自でインタビューを敢行し、その内容を Facebook にシリーズ化して投稿した結果、友人や家族からは「本当に世界ではこんなことが起きているなんて知らなかった」などの反応の声をいただき、さらに SVA のスタッフの方々からも大きな反響があり、「ピーの貧困の現状について真剣に考える機会を貰った」などの反応があった。Twitter では、ミャンマーで経験した面白い経験を毎日一回投稿した結果、ミャンマーの NGO に従事している方や企業に勤務している方々からプログラム期間中に約 30 名の方たちから新たにフォローして頂いた。また、SVA の寄付者や団体関係者の方々と多く会う機会があり、連絡先などを交換できたので、総合的に評価して2つ目の目標は達成できたといえるだろう。しかし、それと同時に情報発信に関する1つの課題が明確になった。今回の研修プログラムで、団体のホームページに掲載されるブログ記事の執筆させていただく機会をいただき、Facebook 同様ナイトマーケットの物乞

い少年に対して行ったインタビュー内容をブログ記事のテーマとして執筆した。記事の執筆が完了し、記事がホームページに無事掲載されたものの、後に見直してみると読者目線から見て少々読みにくい文章になってしまった。普段から情報発信というものに慣れておらず、読者目線というものを意識できていなかった為であろう。今後は情報発信を日常的に行い、良い読者目線に即したウェブライティング能力を上達させていきたいと考えている。具体的には、ブログを設立して日常的にオンラインで自分の考えを発信していく事、SNSを活用して国際協力やプログラム期間中に共有できなかったミャンマーでの経験談を発信することを考えている。

▶ 活動を通じて得られた、興味・関心についての事後調査・研究内容

プログラム期間中に行った、物乞いをしている人々へのインタビューをきっかけに、自分の中で「貧困」や「格差」の問題に関心が急激に高まった。開発途上国で政府から十分な保護が得られない環境下で、貧困に苦しむ人々、貧困の連鎖から脱出できない人々を如何にして救済できるか、外部からの支援からどうやって地域住民の自律的で持続可能な好循環を生み出せるかなど、貧困の抜本的な解決方法をインターネットで検索した。その結果として、「マイクロファイナンス」というアイデアが浮かび上がり、インターネットでアクセス可能な学術論文をできるだけ多く収集しており、今後もマイクロファイナンスへの理解を深めていこうと考えている。